

研究プロジェクト5 「宣教師関係資料研究」

大江 満

宣教師関係資料は、戦前まで立教学院の経営母体であった米国聖公会の伝道機関誌『スピリット・オブ・ミッショナリス』(Spirit of Missions/1836-1939)とその後継誌『フォース』(Forth/1940-1959)が基幹資料となる。

特にスピリット・オブ・ミッショナリスには、幕末から昭和にいたる海外・国内の一般情報や、内外任地の伝道・教育・医療関連の記事が満載されている。この機関誌に編集されている立教に関する記事は、立教大学の歴史にとっては貴重な情報源である。そこで、日米修好通商条約が施行され米国聖公会遣日宣教師が来日した一八五九年から、後継誌『フォース』の終刊年である一九五九年までの一世紀を対象期間として、立教関係記事の集成を抄訳付で刊行することになった。

これは二〇〇八年度から発刊され(第一巻・一八五九―一八八九年・第二巻・一八九〇―一九〇三年・第三巻・一九〇四―一九一四年)、今年度は第四巻(一九一

四―一九二四年)が刊行予定である。

各巻は、口絵、まえがき、凡例、用語表記、解題、英文表題、抄訳目次、記事集成(抄訳)、英和記事表題、人名索引から構成され、原文記事は抄訳と対照できるように配置され、記事自体の注記とともに記事内の文章や用語にも脚注が付されている。

立教学院史資料センターでは、日本聖公会管区資料室所蔵の米国聖公会遣日宣教師書簡群(通称ジャパン・レコーズ、Japan Records)のマイクロフィルムの複写版を、日本聖公会管区事務所と共有できることになったため、目下、この膨大な書簡群の目録作業を、立教首脳外国人の書簡から優先して進めている。

さらに、一九〇〇年から一九四四年まで発行された日本聖公会の機関誌『基督教週報』(一九四三年四月一日の八三巻七号より『基督教』と改題され、一九四四年二月一〇日の八四巻一号が終刊)のデジタル化と詳細な記事目録が完成し、資料センターのHP上で閲覧できるようにになった。

進行中の上記スピリット・オブ・ミッショナリスの立教関係記事集成が完成し、ジャパン・レコーズの目録化が整うことにより、基幹資料と一次資料の解析を担う研究が始まり、新たな事実の判明や定説の修正、また懸案問題の詳細な解明が進展することを期待している。